

研究実施状況報告書

平成 31年 2月 26日

長崎県立大学長 様

研究責任者 所 属 地域看護学
職 名 教授
氏 名 中尾八重子



受付番号 362	承認番号 349
I 課 題 向老期以降の男性の健康づくり推進員参入に影響する要因とその構造	
II 研究期間及び調査期間 研究期間 平成29年4月1日 ～ 平成31年3月31日 調査期間 平成30年9月1日 ～ 平成30年9月30日	
III 研究の実施状況（該当項目にチェックしてください） <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究が終了した（公表方法：修士論文発表会で発表） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究を実施した <input type="checkbox"/> 研究計画を変更して研究を実施した 変更審査申請書提出（ 済 ・ 未 ） 変更内容： 変更理由：	
IV 今後の研究の概要（研究が継続の場合）	
V 研究結果の概要（研究が終了の場合） 本研究は、退職後男性の健康づくり推進員への参入要因を明らかにすることを目的とし、退職後に健康づくり推進員になった男性を対象に、基本属性や参入のきっかけなどについて個別面接聞き取り調査を実施した。その結果、退職後男性の健康づくり推進員への参入は、10の内的要因と3つの外的要因によることが明らかになった。退職後ならではの要因は、【有意義な時間の探求】と【充実した余暇活動】で、老年期に特有なのは、【社会貢献への意欲】と【健康への関心】、男性ゆえの要因は、【活動実践の確信】と考えられた。さらに、【妻の後押し】は、退職後かつ老年期の男性に特有の要因で、【大事な人付き合い】は、成人期以降かつ男性に特有な要因である。退職後男性の健康づくり推進員への参入には、退職後男性への保健師による直接的なはたらきかけとともに、現任の健康づくり推進員や妻のはたらきかけが効果的である。そのため、保健師は、①公民館や保健センター、地域のイベントなど住民が集まる様々な場に出向く、②日頃の保健師活動の中で住民との顔の見える関係づくりを行う、③健康づくり推進員の活動が健康づくり推進員の合意に基づく主体的で、健康づくり推進員にとって充実あるいは楽しいと思えるように展開されるよう支援することの重要性が示唆された。	
VI その他報告すべき事項	

※V研究結果の概要については別紙での提出も可